



渋沢栄一銅像の 除幕式

宮本孝一
老年学情報センター

櫻園通信 61 令和3年1月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

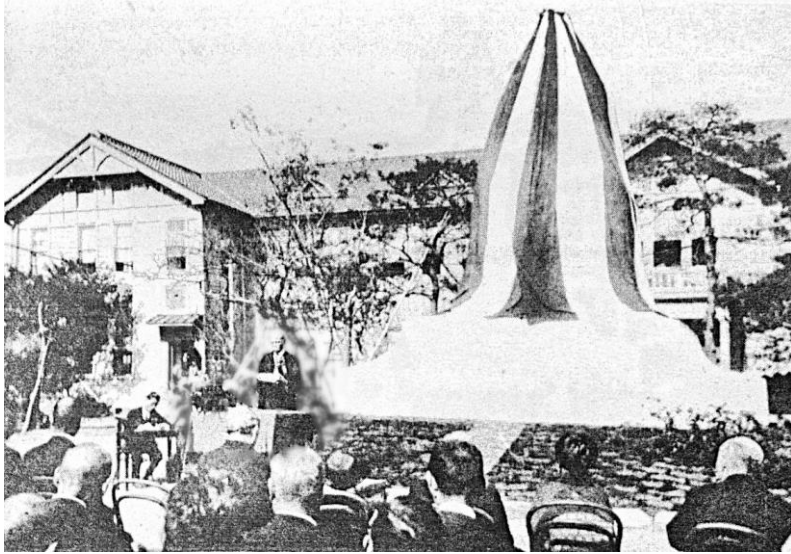
東京都健康長寿医療センターの敷地内には、約百年前に養育院本院に建立された巨大な渋沢栄一銅像が残っています。
養育院が大塚から板橋に移転してすぐに建てられものです。



その除幕式当日の様子はどのようなものだったでしょうか。
その記録を見てみましょう。読みやすいように改行やよみがななどを加えました。

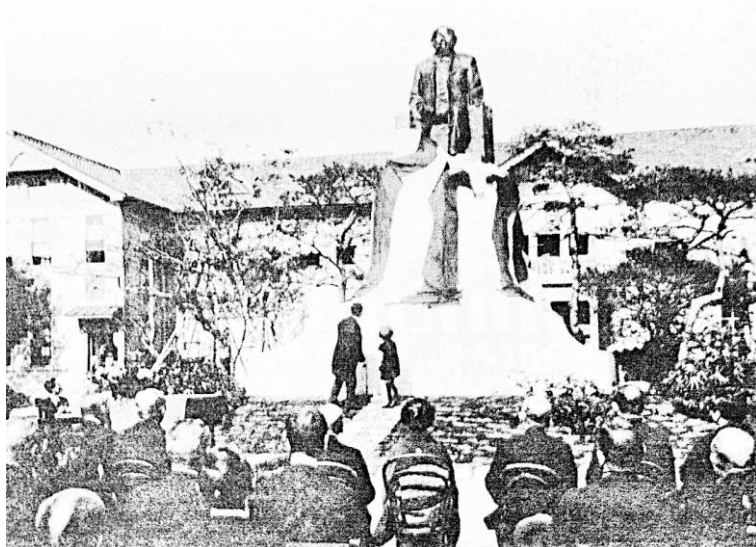
◆
当日は晩秋稀なる小春日和にて、定刻前より或は自動車に或は徒歩に続々参着せらるる来賓織るが如く、真に板橋町に於ける未曾有の光景を呈したり。

①幕に包まれていた銅像。
中村是公銅像建設会長(東京市長)の式辞。



廳(やが)て開会を告ぐる一発の煙火冲天に轟くや、主賓渋沢院長並に渋沢子爵の同族を始め来賓一同は予て設らへたる銅像前の式場に参入。
一同着席を了はらるるや、当日の司会者田中本院幹事先づ開会の辞に次ぎ銅像建設の経過並に工事報告を為し、次で中村市長は銅像建設会長の資格にて式辞を述べられ、

②除幕の瞬間。
銅像の下に栄一の孫昭子と田中太郎養育院幹事。



右終るや 渋沢子爵令孫昭子嬢(十一歳)は田中幹事の介添へにて幼なき花の姿を銅像の直下に運ばれ、肅然として除幕の紫紐を惹けば、紅白色鮮やかなる覆幕は微風に翻へりつゝ、颯とこべり落ち、見るも心地よき白色の花崗岩台石上、十有六尺の

中空に温容玉の如き（やさしく
おだやかな表情顔かたちが玉石
のように美しい）子爵の青銅坐
像活けるが如くに現はれ出でし
かば、急霰（きゅうさん）にわ
かに降るあられ）の如き拍手と
歓呼は期せずして会衆の間に湧
き起こり。

斯（か）くて芽出度く除幕終れば洪
沢院長はやをら老軀を演壇に運ばれ、
感慨無量の態度にて鄭重なる謝辞を述
べられ、次いで若槻内務大臣及び平塚
東京府知事の孰れも老子爵の功績を称
へたる懇篤なる祝辞朗読あり。

最後に小坂本院常設委員長は建設会
専任理事として閉会辞を述べられ目つ
同氏の発声にて子爵の万歳を三唱し、
之れにて滞りなく式を閉ち直に來賓
を本院大講室内に設らへたる食堂に案
内し午餐を饗せり。

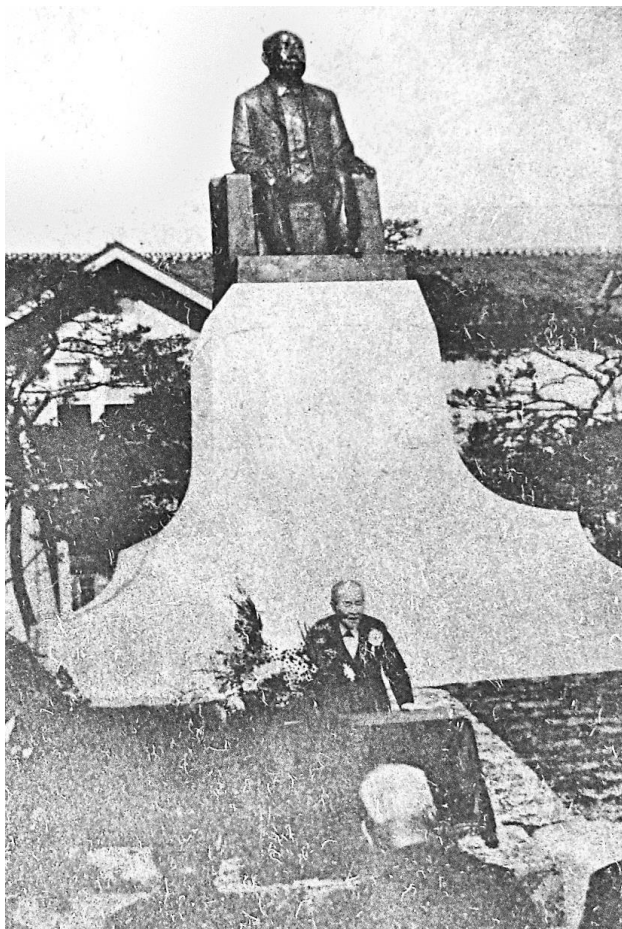
斯くて宴方に酣（たけなわ）なる頃、
小坂専任理事より一場の挨拶を述べら
るゝところあり。

次で近藤東京市会副議長は市会議員
を代表して乾盃辞を述べられ、老子爵
の万歳を祝する歓呼の裡に一同の乾杯
あり。

終りて再び洪沢子爵の蘇東坡（そと
うば）約千年前、中国北宋の詩人・政
治家）の喜雨亭の記に因（ちな）める
含蓄深き一場の演説あり。

最後に枢密院議長穂積陳重男は洪沢子
爵家親族を代表していと鄭重なる謝辞
あり。

和氣霽々（わきあいあい）裡（り）
うち）に散会せしは午後一時過ぎなり
き。



③洪沢栄一の謝辞
青淵澁澤榮一傳 昭和16年刊 p78より

銅像の除幕式は一九二五（大正一
四）年一月一五日に開催されました。
記録の原文は、東京市養育院月報
第二九二号・第一一一―一三頁（大正一
四年一月）に掲載されたもので、さ
らに「洪沢栄一伝記史料」第三十卷
二三七―三三八ページに転載されていま
す。

「洪沢栄一伝記史料」の本文はイン
ターネットで公開されています。

